



150年間、培われてきた風土

1 中川小学校校旗について(昭和38年10月15日)

校旗、校歌の制定は16代小田垣校長の念願であった。その志を17代荒川校長が引き継がれ、昭和38年6月、鼓笛隊設立を機運として育友会にはかり、総代会の協力を得て校区全戸より醸金寄贈されたものであります。尚、略式校旗は、鼓笛行進、運動会入場の際、児童旗手に持ち易いものをとの考慮から、当時の育友会全委員・学校全職員から寄贈されたものである。

2 図柄等について(旧校旗と比べて)

(1) 地色

・従来、校色として緑色が採用されていたこと、金系との調和を考えダークグリーンと改めた。

(2) 校章

・稲穂束・尋常小学校時代の校章は稲であったので旧校旗の桜を伝統のものにかえた。尚、旧校旗のリボンの図柄は優勝旗等に用いられるものであるから、これを省略。

・中……旧校旗の中川の「中」を昭和24～5年頃より児童会で制定、校章パッチとして児童に使用させているものに改め、最近の児童にも親しみのあるものとした。尚、体育館正面の校章との関連も考慮したものである。

・川……旧校章のものをそのまま用いた。

・小……児童会制定の「中」は同時に「小」を表現しているのであるが、「小」を判然とさせるため、「小」の左右の点画を大きくした。

(備考) 校旗の図柄・色彩については、姫路在住の尾田龍画伯の指導を受けた。



旧校旗



(昭和38年)校旗

これは、昭和38年に制作された校旗が収められているケースの中に見つけた紙に書かれていました。校旗や校章を見た時に、「どこに中川小の文字が配置されているか…」くらいは考えますが、ここに書かれているような、当時の人たちの熱い思いや、完成までに費やされた時間は想像も及びません。4月に本校の卒業生でミドリ電化の創始者である安保証さんが来校された時も、同じようなことを感じました。帰られる時に、校門のあたりまで行かれて、しきりに何かを確認されているようでしたが、安保証さんの眼にあの頃の何が見えているのか、残念ながら僕にはわかりません。

「風土」は、「風」と「土」からなるものです。数年間程この学校で勤務して、また去っていく、「風」のような我々教員は、この地において生命を生み出し育む「土」の重みを大事にしているのだろうか…と思う時があります。150年間も続いてきた学校です。その時、その時の「風土」があったことは間違いありません。是非、いろんな方にお話を伺いたいです。

風土という言葉があります。動くものと動かないもの。風と土。人にも風の性と土の性がある。風は遠くから理想を含んでやってくるもの。土はそこにおいて生命を生み出し育むもの。君、風性の人ならば、土を求めて吹く風になれ。君、土性の人ならば風を呼びこむ土になれ。土は風の軽さを噛み、風は土の重さを蔑む。愚かなことだ。風は軽く涼やかに、土は重く暖かく、和して文化を生むものを…。

農学者：玉井袈裟男氏の言葉